

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和2年 2月 14日

公表: 令和2年 2月20日

事業所名 一般社団法人 虹の里 コアラの家

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|---------------------------------|--|----|-----|---|--------------------------|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 療育の内容・子どもたちの様子に応じてパーティションで部屋を区切ったり小部屋を利用している。 | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者の意向等の把握をし、職員間で話し合いをして改善に努めている。 | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | 職員は毎月末に必ず自己評価をしている。 | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 職員の資質向上のため、関係研修に参加し、参加後は伝達講習を行う。 | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 月に1回カンファレンスを行い、課題の分析をしている。 | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 月に1回カンファレンスを行い、活動プログラムを考えている。 | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 月に1回カンファレンスを行い、活動プログラムが固定化しないように意識する機会を設けている。 | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | | |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 1人ひとりの状況に応じて臨機応変に対応している。 | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 細かい打ち合わせを行うようにしている。 | |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 毎日、終業時間に支援内容について振り返ったり、情報共有を行う。又、欠席職員にも後日責任を持って振り返るようにしている。 | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ等支援を行っている | ○ | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|--|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 担当者会議後、職員に報告して情報共有を行う。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | 連絡を取り合って学校公開など利用して見学に出かけている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | / | / | / | / |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | | ○ | | まだ移行する利用者がいない。今後、移行する利用者が出てきた場合は情報を提供し、正しい選択ができるように支援したい。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | | ○ | | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | ○ | | 今までに話はあったが、実現されていないので、今後交流するようしていきたい。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | | | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | | |
| 保護者への説明責任等 | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | | |
| | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | 契約時に必ず時間を作って説明している。 | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 療育日やそれ以外の日に時間を作って行っている。 | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | ○ | 同じ悩みを持つ保護者同士で懇談する場を作っている。 | 父母の会はないが、必要に応じて同じ悩みを持つ親同士で懇談する場を作る。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | 苦情があった時には速やかに対応し、保護者に伝えて理解していただくようにしている。 | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | 書類は鍵のついている棚に保管している。又、職員にも十分注意するよう伝えている。 | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | 同じ敷地内に機能訓練・高齢者向けのデイサービスの施設があるので、夏祭り等の行事に招待して触れ合っている。 | |

| | | | | | |
|---------|----|--|---|--|--|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 保護者全員には周知できていないので、手紙を配布したり、訓練を行う時は事前に連絡したり、口頭で様子を伝えたりする。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | 療育の時間に訓練を行うだけでなく、定期的に絵カードなどで災害時の対応について考える機会を作っている。 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | イベント時に飲食をする時は、その都度確認している。 | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | 職員が記入しやすい書式にし、事例を集め、対応策を考えている。 | |